

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成30（2018）年度採択分）  
「The Horticulture Journalの質的強化と国際的認知度向上による更なる国際情報発信強化のための  
取組」  
（課題番号：18HP2001）

学術団体名：一般社団法人 園芸学会  
学術刊行物の名称：The Horticulture Journal  
事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

本取組では、The Horticulture Journal (Hort J)の質的強化と国際的認知度向上のための活動を行う。また、特に海外からの投稿数増加にも対応でき、ジャーナル審査・出版の業務を継続的に安定して行えるような編集体制の強化を積極的に行う。具体的には、特集号発行によるジャーナルの魅力・質的向上、プロモーション活動の推進、編集体制の改編による強化の三点を主に行う。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

取組みに関して、以下のように目標を設定した。特集号を定期発行し、専用Webサイトなどを通じた情報発信を行う。プロモーションにおいては、国際会議や海外の学会と連携し、海外からの投稿論文増加を目指す。また、国際化の活動体制・編集体制を改編・強化する。また、以下の通り数値目標を設置した。表記はいずれも申請時→中間報告時→終了時となっている。

- 年間投稿数（海外からの投稿数）：100報（20報）→120報（35報）→140報（50報）
- 年間掲載海外論文：4報→7報→10報
- 年間論文アクセス数：90,000→110,000→130,000
- インパクトファクター：0.7→1.2（米国園芸学会誌と同等）→1.5（Sci Hort誌と同等）
- 外国人編集委員：16名（41%）→22名（49%）→26名（53%）
- 外国人査読者割合：10%→20%→30%

## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

- これまでに特集号を2号（「東日本大震災からの復興」、 「イチゴ」）発行した（右図）。
- 編集体制の強化として、編集委員長の任期を2年から4年に延長した。また、上級編集委員（シニアエディタ）制を導入した。Hort J戦略会議をH30年に設置し、国際情報発信強化活動の舵取りを行った。さらに、R2年にはこれを国際情報発信強化特別委員会として、園芸学会内の正式な委員会に発展させた。
- インドネシア園芸学会とMOUを締結し、インドネシア園芸学会員に投稿資格を付与すると共に、インドネシア園芸学会員から3名の研究者をHort J外国人編集委員として加えた。
- IFは申請時の0.683（2016）から1.176（2019）に大きく上昇した。
- 年間論文アクセス数は申請時の90,698件から、2019年度の136,456件に大きく上昇した。

### ・今後の計画

- 引き続き特集号を定期発行する。特集号の専用Webサイトを作成し、特集号の情報発信を強化する。
- インドネシア園芸学会に続き、他のアジア諸国の園芸学会とのMOU締結を行う。
- 外国人編集委員を増員させると共に、外国人査読者に積極的に論文審査を依頼し、Hort Jの国際的認知度向上と共に、海外からの投稿数増加に繋げる。

